アジア・太平洋国会議員連合

～第 51 回総会、オンライン実施～

第 51 回アジア・太平洋国会議員連合（APPU）総会が 10 月 13 日と 14 日に開催された。APPU は、毎年、加盟国議員団が持ち回りで総会を主催することになっており、今回は、キリバス議員団が初めて主催し、昨年に引き続きオンラインでの開催となった。IFA は、2006 年 10 月より、APPU 中央事務局と日本議員団事務局の運営を行っている。

（関連記事：本誌 2022 年 7 月号）

◇

APPU は、1965 年（昭和 40 年）に、岸信介首相ら有志の提唱を受け創設されたが、その背景には、当時のアジア地域における東西対立の深刻化があり、議員外交の場を設けて政府を支援し、自由と民主主義に基づく域内の平和と安定を確立することを設立趣旨とした。

その後、アジアに加え、ナウル、パラオなど太平洋島嶼国が次々と加盟し、80 年に、「アジア・太平洋国会議員連合」（Asian-Pacific Parliamentarian' Union/APPU）に名称を変更した。

APPU の加盟国・地域・オブザーバーは次の通り。

◇

アジア地域（8 ヵ国）：日本、中華民国（台湾）、大韓民国、タイ王国、マレーシア、フィリピン共和国、ラオス人民民主共和国、モンゴル国

太平洋地域（13 ヵ国）：ナウル共和国、バヌアツ共和国、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、ソロモン諸島、パプアニューギニア独立国、トンガ王国、サモア独立国、キリバス共和国、クック諸島、ツバル、フィジー諸島共和国、パラオ共和国

準加盟地域：グアム、北マリアナ諸島

オブザーバー：ベトナム社会主義共和国

◇

●第 51 回総会の実施概要

開催期日：2022 年 10 月 13 日～14 日

開催場所：衆議院第一議員会館　国際会議場（オンライン会場）

テ ー マ：「強靭かつ持続可能な社会の構築～安全、平和、繁栄を通じて～」

参 加 国：8 ヵ国（地域）（台湾、クック諸島、日本、マーシャル、ナウル、フィリピン、タイ、キリバス）

日　　程：

10 月 13 日（木）

11:00～11:45 開会式、第 85 回理事会
11:50～12:30 第 51 回総会　開会式、各国代表団の紹介
13:30～15:00 各国概要報告（カントリーレポート）の発表
15:15～16:30 自由討議

10 月 14 日（金）

11:00～12:40 共同コミュニケの審議・採択
12:40～12:50 次回主催国挨拶、終了

各国はカントリーレポートを通じて、自国をとりまく経済、社会問題に触れ、またウクライナ紛争による燃料、食料価格の高騰など、グローバルな課題も浮き彫りにされた。続く自由討議では、率直な意見交換がなされ、強靭で持続可能な社会の構築には、各国の協力が欠かせないことを改めて確認し、共同コミュニケを採択した。

本総会で、次回、第 52 回総会は日本が主催することに決まった。折しも、水際対策が緩和された直後でもあり、対面による総会の実現を目指し、日本の素晴らしい季節を楽しんでもらえる時期に、有意義な総会を開催したいとの日本議員団挨拶があり、閉幕した。

世界万華鏡

国際交流・コーディネーター　小山（おやま）　麻由実（まゆみ）　シリーズ 15　フィジー（その 2）

前号のフィジーでの素敵な出会いはさらに続きます。

◇

日本語を話せるこのおばさん、さすがフィジー人でとにかく面倒見がよい。船に乗るところから中を案内してくれ、「どこに座りたい、一緒に座ろう」、ちょっと風が強くなると「サァームイですか、大丈夫、ワタシちょとサムイ」、山が見えてくると「あれ富士山ね、アハハ」、無言になったと思ったら「ねぇーむいなぁ」と。とにかく素敵な日本語で気遣ってくれました。

船がレブカのあるオバラウ島に到着する前に、先ほどのバスに乗り込み、着くと船からバスで出発です。既に夕方になり、バスは海沿いの通りを猛スピードで進みます。一歩間違えたら落ちるのではないかというところを、慣れているドライバーはスイスイ、爆音フィジー音楽を鳴らしながら進みます。途中の村で先ほどのおばさんとはお別れです。今度は日本でねと。

さて私たちはどこで降りれば良いのでしょう。既に真っ暗で少し不安に。チケットカウンターでは最後まで乗っていれば大丈夫と言われていましたが、町の真ん中でみんな降りてしまいました。どうやらここが終点のようでしたが、ドライバーにホテルの名前を言うと、「まだもうちょっと」と無事にホテルの前で降ろしてくれました。バスに乗るまでそしてしばらくはドキドキでしたが、サプライズで素敵な出会いがあったレブカまでの道のり。これだから旅は面白い、を実感した 1 日でした。

レブカは 1874 年から 82 年までフィジーの首都がおかれていた場所、翌日、古い町並みが残っているとのことで歩いてみることにしました。日曜礼拝に向かう村人、そして、教会からはお祈りと聖歌が聞こえます。15 分に 1 回、大聖堂の鐘が鳴り響きます。メインストリートは 10 分かからず歩ききることができます。それにしても人を見かけません。裏道の普通の民家にはちらほら人がいますが、とっても静か。昔の町並みが残っていて、歩いているとタイムスリップしたような感じでした。

さて、町を歩いていると、世界遺産に登録される前からあるおんぼろ看板と、2013 年世界遺産に登録された後設置された立派な看板の 2 種類がありました。立派な看板を見ると、そうだ、ここは世界遺産なんだと思いますが、古くて文字も読めないような渋い看板ばかりでした。歴史的な町並みは素晴らしいのに観光客はおらず、住人もここが世界遺産という意識はない世界的にもとても珍しい場所。13 年に認定されたので、フィジー時間でこれから少しずつ浸透していくのかなと思いました。私にとってはこののんびり感が素敵でお気に入りの場所となりました。

夕食後、雑貨店に水を買いに行くと、昨日会ったとても親切なおばさんにばったり。レブカの隣村から、お買い物に来たとのこと。みんなで大声を上げてハグとキスの感動の再会でした。こういうフィジー人の暖かいところが本当に大好きです。

令和 4 年 11 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事務局 03(3582)3021
印　　刷：ダイト印刷㈱

アジア・太平洋国会議員連合

～第 50 回総会、オンライン実施～

第 50 回アジア・太平洋国会議員連合（ＡＰＰＵ）総会が 2 月 2 日から 3 日まで開催された。APPU は、毎年、加盟国議員団が持ち回りで総会を主催することになっており、今回は、日本議員団が主催したが、世界的なコロナ禍の状況により、初のオンラインによる総会となった。IFA は、2006 年 10 月より、APPU 中央事務局と日本議員団事務局の事務局運営を行っている。

◇

アジア・太平洋国会議員連合は、1965 年（昭和 40 年）に、岸信介首相ら有志の提唱を受け創設されたが、その背景には、当時のアジア地域における東西対立の深刻化があり、議員外交の場を設けて政府を支援し、自由と民主主義に基づく域内の平和と安定を確立することを設立趣旨とした。

その後、アジアに加え、ナウル、パラオなど太平洋島嶼国が次々と加盟し、80 年に、「アジア・太平洋国会議員連合」（Asian-Pacific Parliamentarians' Union/APPU）に名称を変更した。

APPU の加盟国・地域・オブザーバーは次の通り。

◇

アジア地域（８ヵ国）：日本、中華民国（台湾）、大韓民国、タイ王国、マレーシア、フィリピン共和国、ラオス人民民主共和国、モンゴル国

太平洋地域（13 ヵ国）：ナウル共和国、バヌアツ共和国、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、ソロモン諸島、パプアニューギニア独立国、トンガ王国、サモア独立国、キリバス共和国、クック諸島、ツバル、フィジー諸島共和国、パラオ共和国

準加盟地域：グアム、北マリアナ諸島

オブザーバー：ベトナム社会主義共和国

◇

●第 50 回総会の実施概要

開催期日：2021 年 2 月 2 日～ 3 日

開催場所：衆議院第一議員会館　国際会議場（オンライン会場）

テ ー マ：「新型コロナウイルスの感染拡大の防止と経済的・社会的活動の再生に向けて」

参 加 国：11 ヵ国（地域）（台湾、キリバス、クック諸島、ナウル、フィリピン、ソロモン諸島、タイ、ツバル、トンガ、マーシャル諸島、日本）

日　　程：

２月２日（火）

10:00～10:20 開会式、第 84 回理事会

10:50～11:15 第 50 回総会　開会式
　　菅総理ビデオメッセージ

11:15～11:30 各国代表団の紹介

11:30～14:30 カントリーレポートの発表

14:30～15:00 自由討議

２月３日（水）

10:00～10:30 共同コミュニケの審議・採択

10:30～11:00 次回主催国挨拶、終了

今回の総会では、各参加国がカントリーレポートを通じて、新型コロナウイルス禍の状況下で、自国が取った感染防止対策や経済・社会活動の再生に向けた対応措置について紹介したが、特に、台湾がコロナ発生から今日にいたるまでの一連の措置について各参加国より高い関心を持って受けとめられた。さらに、全ての参加国がワクチン確保や感染症対策のための国際協力を継続することの重要性を確認して共同コミュニケを採択した。最後に、キリバス代表団より、次回の第 51 回総会・第 85 回理事会を主催したい旨の表明があり、全ての参加国代表団により暖かく歓迎され、閉幕した。

世界万華鏡　“コロナ禍のオンライン交流”　スウェーデン・トンバ高校／東京都立杉並総合高校

2020 年 4 月で 12 回目になるスウェーデン王国・ストックホルムのトンバ高校訪日研修は、コロナ禍により今年 5 月に延期となっている。今年 1 月 26 日には、スウェーデン外務省が、EU 外の地域への渡航規制を 4 月 15 日まで延長すると発表した。スウェーデンでは丁度、イースター（イエス・キリストの復活祭）休暇明けとなるが、5 月の訪日研修が予定通り実施されるよう日本・スウェーデン双方の参加予定高校生たちは皆、願っている。

昨年 10 月には、トンバ高校より、参加生徒の日本語継続学習の動機付けのためにも、日本でホストファミリーになる予定の高校生とスウェーデン生徒によるオンライン交流ができないかとの提案があった。研修受け入れ予定高校に打診をしたところ、2016 年よりトンバ高校生徒を受け入れている東京都立杉並総合高校とのオンライン交流が実現した。

１回目のオンライン交流は昨年の10月下旬に行われ、自己紹介をしたり日常生活について話し合った。12 月には 2 回目が実現し、クリスマスの過ごし方や様々な行事、冬休みのことなどについて紹介し合い、交流を深めた。

さらに、トンバ高校の生徒たちが訪日研修のために準備していたスウェーデンのプレゼンテーションも行った。

ここに、杉並総合高校の生徒 2 名の感想を紹介する。

●中尾　瑠那（なかお　るな）
高校　2 年

私は今回トンバ高校とのオンライン交流会に参加させていただきました。最初は、皆さんときちんとコミュニケーションをとることができるかが、不安でしたが、トンバ高校の生徒の誰もが笑顔で積極的にいろいろなお話をしてくれて、とても安心しました。皆さんが日本語を流暢に話され、日本が大好きであることが、お話をしていて、とても良く伝わりました。スウェーデンについてのプレゼンテーションは、おもしろく、とても勉強になりました

2 回のオンライン交流をした後に、SNS などを通じて連絡を取り合い、トンバ高校の生徒と個人的に話す機会もできました。次は日本の私たちがプレゼンテーションをして楽しんでもらえる交流ができればと思っています。次の交流会ができることを楽しみにしています。

●絹山　美和（きぬやま　みわ）
高校　2 年

私は、トンバ高校の生徒の皆さんがスウェーデンについてのプレゼンテーションをしてくれたことが特に印象に残っています。初めて知った文化や参加してみたいと思った行事があり、日本でトンバ高校の生徒さんたちを待っているだけでなく、いつか私もスウェーデンに行ってみたいと思いました。今回はコロナウイルスの関係で本来のホームステイが実現できず、オンラインでの交流となりましたが、学びが多く、とても楽しい時間を過ごすことができました。

令和 3 年 2 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事務局 03(3582)3021
印　　刷：ダイト印刷㈱

アジア・太平洋国会議員連合

APPU 第 49 回総会、台湾で実施

2006 年 10 月より「アジア・太平洋国会議員連合（APPU: Asian-Pacific Parliamentarians' Union）」の中央事務局と日本議員団事務局の運営を行っている IFA では、8 月 5 日から 7 日まで、台湾 APPU 議員団が主催する第 49 回総会と第 83 回理事会に日本議員団が参加する際の総会へのサポートを行った。ここに APPU の紹介ならびに総会等実施状況を報告する。

◇

●ＡＰＰＵとは

1965 年（昭和 40 年）に岸信介首相ら有志の提唱を受け、志を同じくするアジアの国（台湾、日本、韓国、フィリピン、タイ）によって創設された、「アジア国会議員連合」（APU：Asian Parliamentarians' Union）が基盤。翌年にはマレーシアも加盟した。

APU 創設の背景には、当時のアジア地域における東西対立の深刻化があり、議員外交の場を設けて政府を支援し、自由と民主主義に基づく域内の平和と安定を確立することを設立趣旨とした。その後、アジアに加え、ナウル、パラオなど太平洋島嶼国の次々参画し、80年に、「アジア・太平洋国会議員連合」(Asian-Pacific Parliamentarians' Union/APPU）名称を変更した。

91 年のソ連崩壊、東西冷戦の終結もあって、APPU は当初の設立目的は達成したものの、近年、アジア・太平洋をめぐる国際情勢は大きく動いており、さらに国際テロ活動の活発化や、北朝鮮の核開発問題など、域内の平和と安定を妨げる要因が増加する等、APPU の一層の貢献が期待されている。

◇

●加盟国・地域

正加盟国 21 ヵ国

アジア地域（8 ヵ国）：日本、中華民国（台湾）、大韓民国、タイ王国、マレーシア、フィリピン共和国、ラオス人民民主共和国、モンゴル国

太平洋地域（13 ヵ国）：ナウル共和国、バヌアツ共和国、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、ソロモン諸島、パプアニューギニア独立国、トンガ王国、サモア独立国、キリバス共和国、クック諸島、ツバル、フィジー諸島共和国、パラオ共和国

準加盟地域：グアム、北マリアナ諸島

オブザーバー：ベトナム社会主義共和国

◇

●第 49 回総会の実施概要

開催月日：2019 年 8 月 5 日～ 7 日

場　　所：台北

テ ー マ：民主主義の海洋と持続可能インド太平洋

参 加 国：日本、キリバス、マレーシア、マーシャル諸島、モンゴル、ナウル、パラオ、PNG、ソロモン諸島、タイ、ツバル、台湾、グアム

日　　程：

8 月 5 日（月）

15:30～18:00 第 83 回事会

18:30～20:30 歓迎レセプション

8 月 6 日（火）

09:00～10:00 第 49 回総会　開会式

10:30～12:00 決議案の審議

14:00～17:00 カントリーレポート

18:30～20:30 立法院長主催歓迎会

8 月 7 日（水）

09:30～11:30 閉会式、共同コミュニケの採択・署名

12:00～14:00 台湾外交部主催昼食会

15:00～18:00 市内視察

◇

決議案は、パラオ、日本、台湾から合計 11 本提出され、プラスチックごみ等環境問題に関連する内容が多かった。日本議員団の決議案に対する積極的な修正提案等が受け入れられ、10 議案が採択された。また、来年の総会、理事会については、日本で開催することに決定した。全参加者 99 名は、蔡英文総統、蘇嘉全立法院院長以下、台湾側の議員、関係者の大歓迎に感謝し、今後の APPU の更なる発展を一同で誓った。

世界万華鏡　国際交流・コーディネーター　小山（おやま）　麻由実（まゆみ）　シリーズ 5　エチオピア（その 2）

ダナキルツアー（エルタ・アレ火山へ）

最終の目的地、エルタ・アレ火山に向かう前日、塩湖からまずはダロール火山への 1 日トレッキングです。ひたすら硬い大地が隆起した景色が続く中を歩きます。サンゴみたいな、大理石みたいな物質、ソルトマッシュルームの隆起。さらに少し進むと、黄色い大地が見え、突然一面すごい色。蛍光黄色や緑、自然のものとは思えないカラフルさ。まるで天然のバスクリーン。硫黄の匂いが辺り一面漂い、グツグツうなっていました。ここは地球かと疑う不思議な景色でした。

一通り眺めたのち、車でエルタ・アレ火山へ向かいます。気温はおそらく 45℃以上。車の窓は絶対に開けられません。車は左右前後上下、激しく揺れます。「世界一」の悪路です。横を見るとラクダのキャラバン、オフロードも何のその。さすがラクダ。歩いたほうが速いのではというスピードで約 1 時間。ようやくエルタ・アレの村に到着。

ここで休憩して、翌日の火口までのトレッキング準備です。山の上で寝るので、軽食・夕食・朝食の準備に追われるコックのチャイナ（通称）。軽食はスープにパンでした。各々準備が終わり出発。約 3 時間かけて山を登ります。

男性は自分で寝袋を運びますが女性の分はラクダが運んでくれます。エチオピアのラクダは働き者ばかりです。最初はなだらかな砂地で少し歩きにくいくらいですが、登りに入ると特に運動もしていなかった 30 代夫婦の体力はどんどん落ちます。欧米人参加者のほとんどが 20 代前半で早いペース、離されないように付いて行くので精一杯でした。休憩は 1 時間に 1 回、約 15 分、先頭から遅れれば遅れるほど休憩時間が短くなり、最後尾が追いついたら、「よし、出発」という状況。3 回休んで、無事に山頂の集落へ。月の明かりの下、先に赤く燃えたぎる火口が見えたときには思わず歓声が沸きました。

ついにここまで来た。もうすぐあの火口に行けるんだ。そう思ったら涙が出そうになりました。火口までは歩いて 10 分、近づくにつれて大きくなるマグマの煮えたぎる音、匂いと熱。こんなに火口まで近づけるなんて信じられません。少し風向きが変わると、熱風と凄まじいガス臭。ただただ圧倒されて眺めていました。興奮冷めやらぬまま野外の寝床で夕食。ここ山頂で食べ物があるのは有り難いことです。こんな所まで来られた幸せをかみしめながら眠りました。

いよいよダナキルツアーも最終日。4 時起床、日の出を火口で迎えるために出発。段々と夜が白んできます。明るくなると見えた足元の冷えて乾いたマグマ。火山の真ん中にいることを実感。早朝でも火口の近くは熱く、陽が昇ると熱さでいられなくなると皆を促すガイド。しばらく生きる大地を堪能し下山。帰路に風車を多く見たので、ガイドに尋ねると、「エチオピアは自然が豊かだから今は水力と風力が主だけど、これから太陽光とバイオマスに力を入れていく。火力や原子力はいらないんだ」と誇らしげ。沢山学びのある、生涯忘れられない場所となりました。

令和元年 8 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事務局 03(3582)3021
印　　刷：ダイト印刷㈱

アジア・太平洋国会議員連合

～第 48 回総会、於：ナウル共和国～

IFA は、2009 年 10 月より「アジア・太平洋国会議員連合（APPU）」の事務局業務を行っている。今年は、ナウル共和国 APPU 議員団が主催する第 48 回総会が 9 月 23 日から 25 日まで開催された。ナウル共和国は、オーストラリアの北東に位置する珊瑚礁の島国で、人口は約 1 万人と世界で 3 番目に少なく、面積もバチカン市国、モナコ公国についで世界で 3 番目に小さい。今年、イギリス連邦内の共和国として独立 50 周年、及び、日・ナウル外交関係樹立 50 周年を迎える。

◇

APPU は 1965 年（昭和 40 年）に、アジア地域の東西対立を背景に、岸信介元総理ら有志の提唱を受けて創設された「アジア国会議員連合」（APU）が母体となっている。その後、91 年ソ連の崩壊、東西冷戦の終結もあり、APPU は当初の目的を達成。一方近年、各国の国内情勢やアジア・太平洋をめぐる国際情勢は大きく動いており、域内の平和と安定に APPU の一層の貢献が期待される。

今年の総会概要は以下の通り。

1．メインテーマ

「アジア・太平洋地域におけるパートナーシップと気候変動克服の強化：防災、減災、再生可能エネルギー、平和と繁栄」

2．参加者

ナウル共和国、日本国、キリバス共和国、パラオ共和国、パプアニューギニア独立国、中華民国（台湾）、タイ王国、トンガ王国、ツバルの 9 加盟国からの議員団 15 名他、総勢 41 名。

他加盟国は次の通り。大韓民国、マレーシア、フィリピン共和国、ラオス人民民主共和国、モンゴル国、マーシャル諸島共和国、バヌアツ共和国、ソロモン諸島、サモア独立国、クック諸島、フィジー共和国、ミクロネシア連邦、計 12 カ国。準加盟地域は、グアム、北マリアナ諸島。オブザーヴァーは、ベトナム社会主義共和国。

3．審議概要

9 月 24 日の開会式ではナウル共和国の Cyril Buraman 議長が総会議長に選出された。続く第 1 次本会議では、加盟国が直面する重要な諸課題に対処するため、地域的な取り組みに役立つ協力的かつ共同的な論議がなされた。

第 2 次本会議では、各国がカントリーレポートを発表し、次回の理事会・総会を台湾が主催することが決定された。

4．決議案の審議と採択

事前に提出されていた決議案 8 本について審議され以下 7 本が採択された。

① 重要な国際機関への中華民国（台湾）の加入支持
② 持続可能な経済のため、コミュニティに基盤を置く観光の促進
③ 再生可能なエネルギーサミットの開催を通じ、脅威となる気象現象に対し地域を跨ぐ防災力を構築
④ 大韓民国から太平洋諸島諸国へ、海藻農業に関する技術移転を促す
⑤ 再生エネルギーの利用促進・グリーンエコノミーの発展促進
⑥ 気候変動対策戦略の策定・促進における協力
⑦ 気候変動対策及び防災における小島嶼国の支援

5．閉会式

9 月 25 日午前、採択された決議案等が盛り込まれた共同声明が採択され、参加 9 加盟国の代表団長と廣瀬徹也中央事務局事務総長が署名した。

世界万華鏡　中国留学生の見た日本　呉（ゴ）　笛（テキ）　“日本の飲食観とマナーから受けたカルチャーショック”

まず日本の飲食から受けたカルチャーショックからお話します。これはご飯を主食として食べる国々しか感じないカルチャーショックかもしれません。中国では米だけでなく、小麦で作った麺や餃子も主食です。

日本のラーメン屋さんに行ったとき、メニューに「ご飯無料」と書いてありました。ラーメンとご飯、ここまではまだ納得できますが、何とチャーハンを食べるときもご飯と一緒に食べる人を見かけたのです。私にとってそれはケーキをおかずにパンを食べるようなものです。極めつけは、家近くのスーパーで餃子おにぎりを見つけたことです。二つの主食を組み合わせて食べるのは、自分から見ればどうかと思います。私は肝試しの気分で買って食べてみました。「なに、こんなに邪道な食べ物が美味い」と思う自らを呪いました。

もう一つの食のカルチャーショックは、冷たいご飯です。中国人にとってご飯といえば必ず温かいものです。軍事演習のとき、炊事を担当する兵士は、炊き立てのご飯と料理がたっぷりと入っている総重量 40 キロの保温箱を背負って、砲撃を受けながら走って、前線に温かいご飯を送ります。中国人はそこまで温かいご飯が好きなのです。最初、私は日本人は猫舌の人が多いからかなと思いましたが、最近、寿司にしろ、おにぎりにしろ、米とともに生きてきた日本人が冷たいご飯を美味しく食べようと考え出した知恵なのかと気づきました。

次に紹介するのは、マナーから受けたカルチャーショックです。例えば電車に乗るときです。中国の電車も通勤時間は電車に乗り込みづらいですが、実際に入ると中は割と空いています。みんなは自分がもっと緩やかな空間にいたいから、譲る気はあまりないです。日本ではどんなに混んでいても、みんな親切に空間を譲ってあげます。中国人が不親切というわけではありません。

「栽培する穀物によって文化の違いが出てきているのではないか」との研究がアメリカで発表されたそうです。米は栽培に手間がかかり、周りの人との協力が不可欠なことから、和を重んじ、協調性が重視されるようになったというのです。中国でも米を主食としている南部地域では日本と同じような地域性が見られるように思います。

来日以来、私は小さな子どもに戻ったように「なぜ」「どうして」を繰り返しています。それを調べ、背後の原因を知り、共通点も沢山見つける楽しさを知りました。カルチャーショックを受けたからこそ、私は日本という異文化をより良く知って受け入れることが出来ました。皆さんもぜひ、自分が感じた異文化について調べてみてください。

平成 30 年 9 月 7 日実施、IFA 後援、「ARC 日本語学校スピーチ大会」（於：国立オリンピック記念青少年総合センター）審査員特別賞スピーチ。

平成 30 年 10 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事務局 03(3582)3021
印　　刷：音和堂印刷㈱

アジア・太平洋国会議員連合

第 47 回総会と第 81 回理事会実施

「アジア・太平洋国会議員連合（APPU）」の中央事務局と日本議員団事務局の運営を担当している IFA では、9 月 18 日から 20 日にかけて、大分県に於いて第 47 回総会と第 81 回理事会を実施運営した。現在、APPU の正加盟国は 21 ヵ国、準加盟国・地域が 2 地域（グアム、北マリアナ諸島）、オブザーバー 1 ヵ国（ベトナム）となっている。以下は正加盟国。（下線は今回の総会参加 10 ヵ国。）

◇

●アジア地域（8 ヵ国）：

日本、中華民国（台湾）、大韓民国、タイ王国、マレーシア、フィリピン共和国、ラオス人民民主共和国、モンゴル国

●太平洋地域（13 ヵ国）：

ナウル共和国、バヌアツ共和国、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、ソロモン諸島、パプアニューギニア、トンガ王国、サモア、キリバス共和国、クック諸島、ツバル、フィジー共和国、パラオ共和国

昨年のパラオでの第 46 回総会を経ての実施となる今回は、開催地が著名な別府温泉を持つ大分であったこととテーマの魅力が関心を呼んだと思われる。17 日に西日本をおそった台風で移動に影響があったものの、参加者は 100 名と盛会。「インバウンド観光振興―地方経済と文化交流の活性化」をテーマに各国国会議員間で活発な意見が交わされた。

THE 47th GENERAL ASSEMBLY, APPU

◇

APPU は、1965 年（昭和 40 年）にアジア地域の東西対立を背景に、岸信介首相ら有志の提唱を受け、志を同じくするアジアの国々によって創設された「アジア国会議員連合」（APU:Asian Parliamentarians' Union）が基盤となっている。創立の趣旨を、議員外交の場を設けて政府を支援しつつ、自由と民主主義に基づく域内の平和と安定を確立することとしている。その後、加盟国を徐々に増やし、80年には、「アジア・太平洋国会議員連合」（APPU：Asian-Pacific Parliamentarians' Union）に名称を変更、太平洋島嶼国の国々も会員に迎え入れた。

91 年ソ連の崩壊、東西冷戦の終結もあって、当初の設立目的は達成したものの、近年、各国の国内情勢やアジア・太平洋をめぐる国際情勢は大きく動いており、一方、国際テロ活動の活発化に加え、北朝鮮の核開発の問題など域内の平和と安定を妨げる要因の増加が見られ、APPU の一層の貢献が期待されている。

今次総会と理事会の実施概要は次の通り。

◇

開催時期：2017 年 9 月 18 日～20 日
場　　所：別府市ビーコンプラザ
日　　程：

9 月 1 8 日（月）
18:00～20:00 第 81 回理事会

9 月 1 9 日（火）
09:30～10:30 第 47 回総会　開会式
10:50～12:00 第一次セッション
・決議案の審議・採択
（参議院議長主催昼食会）
13:30～17:30 第二次セッション
・カントリーレポート
19:00～21:00 歓迎レセプション
（大分県知事主催）

9 月 2 0 日（水）
09:30～11:00 第 47 回総会　閉会式
・共同コミュニケ採択・調印
11:30～13:00 日本側レセプション
（外務政務次官主催）
13:00～16:00 大分県視察ツアー
（地獄巡り、鉄輪地区、富貴寺）

世界万華鏡　中国留学生の見た日本　シュウ・エキメイ　“ライブの眩しさ”

私は昔からずっと音楽が大好きで、中国にいた時にも様々なコンサートを見に行きました。そして来日して以来、何回か好きなアーティストのライブに参戦しました。その経験から考えたことを今日は少しお話したいと思います。

日本では、一番旬の歌手やアイドルたちは大体、東京ドームのような大きなスタジアムでコンサートを行いますが、その他にも数百人しか入れないライブハウスなどで行われるライブも少なくないです。また、少し私を驚かせたのは、ストリートライブという、立ち止まったらただで楽しめるライブがよく見られることです。そしてそのクオリティもなかなかです。今や国民的なバンドである「ゆず」、「いきものがかり」も、昔はストリートミュージシャンでした。

そんなライブは、私にとってはかけがえのない眩しいものです。なぜなら、それは一つ一つの儚い瞬間から組み上げた、その場でしかできない体験だと思っているからです。

私は先月、松任谷由実さんのコンサートを見に行きました。そのコンサートの最後に、松任谷さんは自身の最大の名曲とも言える「卒業写真」という曲を披露しました。その歌詞の内容は、ある日、昔の卒業アルバムを開き、そこに写っているある人を見て、とても感慨無量な気持ちになった、というものです。私はずっと、その「卒業写真に写っている人」は主人公の初恋の人だと考えていて、「素敵なラブソングだなぁ」と、いつも思っていました。ですが、その日コンサートでこの曲を聴いたとき、急に思いつきました。「あの人」は実は昔の自分であるのだ。そう考えて、もう一度歌詞聞いてみると、「僕もそのように、人混みに流されて、変わってしまったのかな？」と、その場でぼんやりと考えてました。そうしたら、自分の大学を卒業して以来の寂しい気持ち、一人で日本に来て以来の心細い気持ちが溢れてきて、そして知らぬ間に涙も一緒に溢れてきました。そこで、ユーミンと一緒に口ずさんでいた 5,000 人の観客たちも、皆きっといろんな人々に出会い、様々な人生を歩んで来て、その時同じ場所で、同じ曲がみんなの心に響いたのだと思います。世の中にはこんな眩しいくらい素晴らしいこともあるんだと、そのライブで強く感じました。

このように、ストレスが溜まったとき、私はいつも様々な場所に行って、そんな眩しいライブで音楽の世界を楽しんでいます。皆さんも日本に留学している間に、自分の心の拠り所を見つけられたらいいなと思います。

平成 29 年 9 月 1 日実施、IFA 後援、「日本語学校スピーチ大会」（於：国立オリンピック記念青少年総合センター）準優勝スピーチ。シュウ・エキメイさんは、大学院クラスに所属。

平成 29 年 10 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事務局 03(3582)3021
印　　刷：音和堂印刷㈱

アジア・太平洋国会議員連合

～第 46 回総会、於：パラオ共和国～

IFA は、2009 年 10 月より「アジア・太平洋国会議員連合（APPU）」の事務局業務を行っている。APPUでは、毎年、アジアと太平洋島嶼国、24 加盟国・地域、オブザーバーにより、総会を実施しており、今年は、パラオ共和国 APPU 議員団が主催する第 46 回総会が 8 月 3 日から 5 日まで、首都マルキョクの政府機関が集まる、ンゲルルムッドにて開催された。ここにその成果を紹介する。（関連記事：本誌 2 月号）

◇

今年の総会には 22 名の国会議員が参加した。メインテーマの「様々な課題の中での友好と繁栄の達成」に沿って決議 5 本を採択するとともに、各加盟国がそれぞれの国内事情と外交政策を発表し、活発な意見交換がなされ、最後に共同宣言を採択した。

1．参加者

中華民国（台湾）、日本国、キリバス共和国、大韓民国、マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦、ナウル共和国、ツバル、パラオ共和国の 9 加盟国および準加盟地域北マリアナ諸島連邦からの議員団および中央事務局。

総会欠席国等次の通り。タイ王国、マレーシア、フィリピン共和国、ラオス人民共和国、モンゴル共和国、バヌアツ共和国、ソロモン諸島、パプアニューギニア独立国、トンガ王国、サモア独立国、クック諸島、フィジー諸島共和国、準加盟地域のグアム、オブザーヴァーのベトナム社会主義共和国

2．審議概要

8 月 4 日午前の開会式では Antonio Bells パラオ共和国副大統領と Camsek Elias Chin パラオ共和国上院議長が来賓として歓迎と開会の挨拶を行った。続く第 1 次本会議では、パラオ共和国の Mark U. Rudimch 議員が総会議長に選出され、加盟国が直面する重要な諸課題に対処するため、地域的な取り組みに役立つ協力的かつ共同的な論議がなされるよう呼びかけた。

3．決議案の審議と採択

事前に提出されていた決議案 7 本について審議され以下 5 本が採択された。

（1）朝鮮半島の平和に関する決議
（2）気候変動への適応戦略の発展と推進に関する協力
（3）分類学の分野において開発途上国の人的資源を強化し、また関連したデータの作成およびその共有に関する能力を向上させる
（4）オーストロネシアで先住民の博物館の交流を強化し、協力体制を確立する
（5）オーストロネシア民族のフォーラム設立に協力する

4．閉会式

8 月 5 日午前、決定事項等を盛り込んだ共同声明が採択され、参加 9 加盟国と 1 準加盟地域の代表団長と中央事務局事務総長が署名した。

◇

APPU は 1965 年に、アジア地域の東西対立を背景に、岸信介元総理ら有志の提唱を受けて創設された「アジア国会議員連合」（APU）が母体となっている。その後、91 年ソ連の崩壊、東西冷戦の終結もあって、APPU は当初の目的は達成したものの、近年、各国の国内情勢やアジア・太平洋をめぐる国際情勢は大きく動いており、一方、国際テロ活動の活発化や、北朝鮮の核開発の問題など域内の平和と安定を妨げる要因の増加が見られ、APPU の一層の貢献が期待されている。

世界万華鏡

“アメリカ便り”　平成 27 年度新日系人招聘事業参加　米国日系人高校生（昨年度）

カロリン・フーバー（メリーランド/当時）

この 1 年、どのように過ごしてきたかを書きます。6 月に高校を卒業して、この秋からデューク大学（Duke University／ノースカロライナ州）に通うことになりました。現在は全米日系米国人記念碑財団で日系人の強制収容所についてのビデオ制作に携わっています。また、白血病・リンパ種協会と国立小児病院での募金活動も続けており、今年はがん研究のための寄付金を約 15 万ドルに引き上げることができました。

マリコ・ルークス（カリフォルニア）

今年の 5 月に、スミソニアン国立アメリカ歴史博物館で開催された青年サミットで、第 2 次大戦中の日系人強制収容所について話をしました。その様子は他州やフランスにも報道されました。現在は、ロサンゼルスのオズボーン頭頸部研究所（Osborne Head and Neck Institute／耳、鼻、喉の医者が開業する病院）でインターンを終えるところです。ここでは人道的医療や専門医師による医療措置がなされており、私は手術を見学したり、医師の補助をしています。研究所の機関誌に記事も書きましたので、近々掲載されると思います。先週は、コロラド州で行われたソフトボール競技会にも出ました。全米の学校から 100 名ものコーチが集まる大会でした。そしてここ、南カリフォルニアの“Youth CAN”という米国日系人指導者養成の夏期プログラムにも参加しています。

モーガン・オメ（カリフォルニア/当時）

ジョンホプキンス大学（John Hopkins University／メリーランド州）の 1 年生を終えました。執筆とイタリア語を学んでいます。大学機関誌の編集もしています。また、模擬国連にも関わっており、“Thread”という公益法人のボランティアもしていて、ボルチモアの学習が遅れている高校生への勉強と生活指導をしています。この夏はボルチモアの“Girls'Life”という雑誌社でインターンもしました。

コールマン・ランボ（オレゴン）

学校の言論・ディベートチーム代表として引き続き頑張っています。オレゴン州ディベート大会の即興スピーチ部門で決勝戦まで進みました。毎週の会議や後輩への指導もしています。日本語とスペイン語も続けています。

＜中略＞　校外では、フェンシングも続けていて、“USA Fencing All-Academic First Team 賞”も受けました。アジア・アメリカ青年指導者会議（Asian American Youth Leadership Conference）にも参加して、ポートランド日系アメリカ人リーグ（JACL）の会員になりました。オレゴン・ボーイズ・ステート（Boys State／米国の各自治体が夏期に高校生を対象に行っている市民の権利や司法を学ぶ集中講座）にも参加し、認められ、2017 年のオレゴン州の青年知事（Governor of Boys State）に選ばれました。昨年、日本で経験した、家族の遺産や日本文化を学んだことが、今、こうして私の人生に大きな影響を与えています。

（日本語訳：編集）

平成 28 年 9 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事務局 03(3582)3021
印　　刷：音和堂印刷㈱

アジア・太平洋国会議員連合

第 46 回総会、パラオで実施へ

IFAでは、2006年10月より「アジア・太平洋国会議員連合 （Asian - Pacific Parliamentarians' Union：APPU）」の事務局を運営しており、毎年、加盟国での総会が行われる。ここ数年の実施地域・国は、東京、奈良、台湾、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島など。今年は、2016 年 8 月 3 日から 5 日まで、パラオ共和国の首都マルキョクでの実施が決まった。

◇

これまで総会で討議された内容は以下の通り多岐にわたり、日本とアジアや太平洋島嶼国との活発な意見交換がなされている。

- 環境と開発
- 代替エネルギー、地球温暖化、気候変動、人材育成
- 人間の安全保障
- 開発と環境
- APPU、新たな挑戦と役割
- アジアと太平洋島嶼国のメンバーのきずな強化に向けて
- 災害の防止および減少における地域連携
- 持続可能な開発目標における教育の役割

◇

APPU は 1965 年（昭和 40 年）に岸信介首相ら有志の提唱を受け、志を同じくするアジアの国々によって創設された「アジア国会議員連合」（APU：Asian Parliamentarians' Union）がその基盤。創設当時はアジア地域における東西対立の深刻化があり、議員外交の場を設けて政府を支援しつつ、自由と民主主義に基づく域内の平和と安定を確立することを設立趣旨とした。その後、加盟国に太平洋島嶼国も加わり 80 年には APPU に名称を変更した。

91 年のソ連邦の崩壊、東西冷戦の終結もあって、APPU は当初の設立目的は達成したものの、近年、各国の国内情勢やアジア・太平洋をめぐる国際情勢は大きく動いており、一方、国際テロ活動の活発化や、北朝鮮の核開発の問題など域内の平和と安定を妨げる要因の増加が見られ、今後も一層の貢献が期待されている。

◇正加盟国（21 ヵ国）

・アジア地域（8 ヵ国）：
日本、中華民国（台湾）、大韓民国、タイ王国、マレーシア、フィリピン共和国、ラオス人民民主共和国、モンゴル共和国

・太平洋地域（13 ヵ国）：
ナウル共和国、バヌアツ共和国、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、ソロモン諸島、パプアニューギニア、トンガ王国、サモア独立国、キリバス共和国、クック諸島、ツバル、フィジー共和国、パラオ共和国

◇準加盟 2 地域：
グアム、北マリアナ諸島、

◇オブザーヴァー 1 ヵ国：ベトナム社会主義共和国

ホストファミリー募集

IFA では、スウェーデンの公立高校生の日本研修ほか、外務省等の招聘プログラムの実施の際に、ホームステイを通しての国際交流を実施しており、こうした事業のホストファミリーを望むご家族の参画を募っております。

ご質問等は、下記、ご連絡ください。

■実施・運営：一般社団法人国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12 麻布台ロイヤルプラザ 703
●ホームステイ受け入れ係
TEL 03-3582-3021、FAX 03-3582-3010
E-mail:ifa-exchane@ifa-japan.org

世界万華鏡

「太平洋島サミットを通して考察する沖縄問題」その1　エッセイスト 五月女光弘

●沖縄の目指す先にあるものは？
「ヤマトンチュウ」と「ウチナンチュウ」

1996年 4 月、橋本総理とモンデール駐日大使との間で合意した「普天間基地移設条件付き返還合意」から 20 年、当初 5 年～ 7 年で完了するはずであった返還は未だ実現していない。なぜいつまでたっても実現しないのか。日本本土の人達にとって、琉球・沖縄問題を理解するのは難しい。本土の人達が沖縄の人達の歴史認識と心情を詳細に考察しないと真の理解と解決は出来ないと思われる。 琉球語に「ヤマトンチュウ」と「ウチナンチュウ」と云う言葉がある。日本の本土人（ヤマトンチュウ）側から考え語るのではなく、琉球・沖縄人（ウチナンチュウ）側からこの問題を考察してみたい。そうすれば見えなかった問題点が見えてくる。

以前日本本土に留学していた諸外国からの大学生の沖縄理解ツアーが行われた。その際の学生が語った印象が衝撃的であった。ヤマトンチュウとウチナンチュウとの間に明らかにいろいろな面で差別意識と被害者意識が存在すると語っている。更に興味深い事に、ウチナンチュウの内部で、「沖縄本島のウチナンチュウ」と「島嶼地域のウチナンチュウ」との間にも同様の差別意識と被害者意識が存在するとも。これは地元の人々も認識している。

＜中略＞

●仮の国家“琉球国”の姿

ウチナンチュウの人々の中で、沖縄が完全な独立国家になることを望んでいる人はそう多くないと思われるが、自由連合国家になることを希望している人はかなりいるものと推測される。

沖縄が、もし宗主国日本の国会承認を経て、日本国傘下の自由連合国家になった場合の国家としての世界的なレベルはどのようなものであろうか。NZ・ニュージーランドの例をもとに説明したい。 国家名称は、琉球国（または沖縄国）、元首は天皇陛下、県知事が首相に、県議会が国会に。外交・防衛の閣僚は持たないが、各部局長が文部・科学、農林・水産、経済・企画などの大臣に就任する。 琉球国（沖縄国）は国連専門機関に加盟出来るし、オリンピック、サッカーのワールドカップやミス・ユニバース世界大会などにも国家として参加可能である。

沖縄の国家としての規模は、12 の太平洋島嶼国と比較すると、人口約130万人（2010 年 10 月 1 日の国勢調査）は PNG・パプアニューギニア（732 万人）に次ぎ第 2 位、 経済規模はダントツの第 1 位 GDP で約 230 億ドル、因みに世界では、グアテマラ、ケニア、ウルグアイ、と同レベル、欧州のスロベニア、エストニア、アイスランドより大きい。（注：東京はメキシコ、ポーランドと同レベル。平成 24 年度統計）。2 位の PNG の GDP は 159 億ドル。太平洋島嶼国としては立派な先進大国である。（つづく）

平成28年 3 月23日、一般社団法人霞関会掲載「論壇」より転載。中略あり。五月女光弘（元外務省参与 NGO 担当大使、元駐ザンビア大使、元在オークランド総領事）参考文献：本紙「世界万華鏡」平成20年12/17号と平成22年 5 /17 号、他。

平成 28 年 5 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事務局 03(3582)3021
印　　刷：音和堂印刷㈱

IFA、事業展開中

アジア・太平洋国会議員連合

APPU 第 45 回総会、於マーシャル

8 月 4 日から 6 日にかけて、大洋州の国、マーシャル諸島共和国において、アジア・太平洋国会議員連合（APPU）の第 45 回総会と第 79 回理事会が実施された。IFA では、2006 年 10 月より APPU 中央事務局ならびに日本議員団事務局を運営しており、今次も日本から出向く、中央事務局事務総長、日本議員団代表および通訳の渡航手続きならびに現地マーシャル議員団の総会実施サポートを行った。

以下、実施状況を報告する。

◇

●APPU 加盟国と地域等

正加盟国 21 ヵ国（□は 9 参加国）

アジア（8 ヵ国）：中華民国（台湾）/日本/大韓民国/タイ王国/マレーシア/フィリピン共和国/ラオス人民民主共和国/モンゴル国

太平洋地域（13ヵ国）：ナウル共和国/バヌアツ共和国/ミクロネシア連邦/マーシャル諸島共和国/ソロモン諸島/パプアニューギニア独立国/トンガ王国、サモア独立国、キリバス共和国、クック諸島、ツバル、フィジー共和国、パラオ共和国

準加盟地域：グアム、北マリアナ諸島

オブザーヴァー：ベトナム社会主義共和国

◇

●総会と理事会の実施概要

主　催：マーシャル諸島共和国議員団

テーマ：持続可能な開発目標における教育の役割

日　程：

8 月 4 日（火）

15:00～17:00　第 79 回理事会

18:00～21:00　議長主催レセプション

8 月 5 日（水）

09:30～10:30　第 45 回総会開会式

11:00～12:00　第 1 セッション
決議案の審議と採択

13:30～17:00　第 2 セッション
カントリーレポート
討議・意見交換

19:00～21:00　大統領主催レセプション

8 月 6 日（木）

09:30～12:00　共同コミュニケ署名
閉会式

8 月 7 日（金）市内視察

① 水産養殖場
② Tobolar コプラ工場
③ Laura 農場
④ Laura ピクニック場

ジュニア大使シアトル・ロサンゼルス班帰国

在シアトル日本国総領事館表敬訪問

第 31 回夏期ジュニア大使友情使節団・米国シアトル・ロサンゼルス班は、平成 27 年 8 月 3 日集合、事前研修後、翌 4 日、米国シアトルへ出発、8 月 19 日帰国した。活動概要は次の通り。

事前研修で海外安全対策他講義を受け、日本文化紹介の練習を行う。

外務省を表敬訪問し四方明子広報文化外交戦略課企画官よりお話を伺った。

シアトルに到着し、7 日間の英語研修で午前の授業と午後のフィールドトリップで英語を楽しみながら勉強した。シアトル市内見学、日系老人ホーム訪問を行い、在シアトル総領事館表敬訪問では小西隆太郎領事よりシアトルのことや外交官の仕事について学んだ。地元の生徒との交流後、週末のホームステイでアメリカの家庭に滞在。

ロサンゼルスでは、南加和歌山県人会での歓迎会ほか、全米日系人博物館、カリフォルニア・サイエンスセンター、ULCA を訪問し、市内見学も行った。

世界万華鏡　IFA 職員･通訳者　金子（かねこ）　進次（しんじ）　中華人民共和国･北京を訪れて

2015 年 4、5 月に 2 度中国・北京を訪れる機会があった。1 度目は純粋に旅行者として、2 度目はあるスマートフォンアプリの日本語版製作業務のクライアントを訪れるためであった。

アメリカの大学院に留学していた際に、所属していた学科に中国からの留学生が多かったこともあり、中国人の友人はこれまでも少なくなかった。また中国は現在の世界情勢を語る上で欠かせない存在であることからも、できるだけ早く中国を訪れたいとずっと考えていた。

そんな折、日本の企業で働く中国人の友人が中国の支社に出張することになり、北京郊外に住むその友人の両親宅に滞在させてもらうことになった。

中国を訪れるに当たり、少年時代に西遊記や三国志に夢中だったことや、大学時代には麻雀に熱中していたことなどを思い出した。あまり意識していなかったが、中国文化には昔から興味をもっていたのだ。訪れてから気づいたことだが、中華料理・漢字・伝統建築など、日本の生活の中には実に様々な中国文化が取り入れられている。

一方、「ドラえもん」をはじめとした日本のアニメは中国でも非常に人気が高く、アニメが諸外国との友好親善に貢献していることにも気づかされた。

友人から、北京を訪れるなら空気が比較的清浄な春が一番良いと聞いていたが、丁度、温暖で青空が見える日が多かった。都市部での大気汚染は次第に改善されているそうだ。今後さらなる環境対策が実施されることもあり、将来的な見通しは明るいように思う。

滞在中数日はユースホステルに宿泊したが、ホステルには外国人旅行者に加え、中国各地から北京に滞在している若者たちも多かった。私は中国語が達者ではないため、英語・漢字による筆談・スマートフォンの翻訳機能などを使ってコミュニケーションを取った。親しくなった何人かと一緒に天安門を訪れたり映画を見に行ったりすることができた。若者たちの多くは日本人も含め外国人と積極的に交流をもちたがっているという印象を強く受けた。

天安門と故宮、近代的なビルの立ち並ぶエリアや、伝統的な建物が多いエリアなど様々な場所を訪れた。あちらこちらに石像や装飾が施されており、壁にはアートが描かれている。長い歴史をもち、実に文化に溢れた街だと感じた。

中国は貧富の差が拡大していると言われるが、確かにモノやサービスの価格の幅が非常に大きかった。今回は都市部しか訪れることができなかったが、内陸部での生活様式はまったく別のものだと聞く。

帰国後も、滞在中に親しくなった何人かとは今でも「微信（WeChat）」と呼ばれる中国版の「LINE」にあたるスマートフォン用アプリを使って連絡を取り合っている。上海や香港などの他の大都市や内陸部など、もっと多くの場所に訪れてみたいと思う。

平成 27 年 8 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事務局 03(3582)3021
印　　刷：音和堂印刷㈱

IFA、各種事業展開中

アジア･太平洋国会議員連合
APPU 第 43 回総会、東京で実施

去る 3 月 25 日から 27 日にかけて、IFA では、アジア・太平洋国会議員連合（APPU）の第 43 回総会と第 77 回理事会を実施運営した。2006 年 10 月よりAPPU中央事務局と日本議員団（JNG）事務局の運営を行っており、その一環。以下、実施状況を報告する。

◇

●APPU 加盟国と地域等（11参加国）
正加盟国 21 ヵ国
アジア地域（8 ヵ国）：日本、中華民国（台湾）、大韓民国、タイ王国、マレーシア、フィリピン共和国、ラオス人民民主共和国、モンゴル国
太平洋地域（13ヵ国）：ナウル共和国、バヌアツ共和国、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、ソロモン諸島、パプアニューギニア独立国、トンガ王国、サモア独立国、キリバス共和国、クック諸島、ツバル、フィジー共和国、パラオ共和国
準加盟地域：グアム、北マリアナ諸島
オブザーヴァー：ベトナム社会主義共和国

●今次総会と理事会の実施概要
場　所：衆議院第一議員会館
テーマ：アジアと太平洋島嶼国のメンバーのきずな強化に向けて
日　程：

3月25日（月）
15:00～17:00 第 77 回理事会
19:00～21:00 JNG野田佳彦副団長主催歓迎レセプション

3月26日（火）
09:30～10:30 第 43 回総会　開会式
10:30～12:00 第一次セッション
決議案の審議
13:30～17:30 第二次セッション
カントリーレポート
19:00～21:00 松山政司外務副大臣主催レセプション

3月27日（水）
09:30～12:00 第 43 回総会　閉会式
共同コミュニケ署名
13:00～16:00 総理官邸に菅義偉官房長官表敬訪問、都内視察

日本留学・就職フェア 2013 年
ハノイとホーチミン会場で実施

現在ベトナムは国際的な経済市場への参入途上にあり、高度人材育成の質的向上について積極的な施策を展開している。日本企業の進出や日本との関係企業が増加するベトナムにおいて、日本は経済・産業と同様にこの高度人材育成への協力という役割を期待されている。

IFA ではこうした状況に鑑み、ベトナム政府機関ならびに国内外の団体と協力し、5 月 25 日にホーチミン、26 日にハノイで「留学・就職説明会」を実施し、様々な目的をもって日本への留学を志すベトナム学生等へ日本の学校の情報提供と企業説明を行った。

第 5 回中学生交流プログラム
ベトナムへ派遣団員募集開始

■**実施期間**：
平成 25 年 10 月 5 日～13 日（8 泊 9 日）
■**募集人数**：日本の中学生 8 名（予定）
■**参加費**：無料
※東日本大震災の被災者は、面接旅費等経費も本プログラムで負担
■**応募**：7 月 16 日までに所定応募用紙を IFA に郵送。書類審査、面接審査を経て団員決定
■URL：http://www.ifa-japan.org
■E-mail：staff@ifa-japan.org

世界万華鏡　日本語教育　永保澄雄（ながほすみお）　シリーズ㉙　ノルウェーのヘムスターさん（その２）

ヘムスターさんと暮らしたのは１年足らずであったが、教わることがたいへん多かった。

ある日、彼が私にこう言ったことがある。「最近私の国では教会へ行く人が少なくなってきました」。私はそのとき「何だ、ノルウェーもそうなのか」といった顔をしたものらしい。かぶせるように彼は言った。「でもその人たちはずっとクリスチャンの生活をしています」。いきなり顔をなぐられた気がした。

彼の言いたかったのはこのことだったのだ。

彼は宣教師なので当り前だと言えるのかも知れないが、しかしその生活は清潔そのもので、正しいクリスチャンとはこういう生活をしているのかと私は思った。

ヘムスターさんは朝早く起きる。そしてシャワーを浴びる。瞑想し、お祈りする。いつも何か熱心に祈っている。

朝食後は決まった時間に家を出て学校に行く。同じ時間に帰ってくる。人のことは褒めるが悪口は言わない。いつもにこやかである。これはそうしなければならないというのではなく、心がいつも深いところで安定しているからであろう。きっと彼の心の中には神様がいらっしゃるのだ。だが私には分からないことなのでそれ以上は考えないことにした。

ヘムスターさんはノルウェー人であるので、そのお国柄もあるのではないか。彼を訪ねて来るノルウェー人もヘムスターさんに共通するところがあって、誰も軽燥ではない。それは東北人のそれを思わせた。ノルウェーの人たちはヨーロッパの東北人なのだ。

静かで重い生活の流れの中に私は知らず知らずに同じように暮らしていた。

ヘムスターさんはその前年、スカンジナビアに本拠を置くルーテル派の教団から派遣されて彼が責任者となり、もう一人の中国人宣教師と一緒に日本にやって来た。その仕事は日本の僧侶を改宗させてキリスト教の宣教師にしようとする尖鋭的な、いや、乱暴なものであったが、すでにホンコンではその成果を挙げ、禅宗の坊さんであった人が手記を書いており、その翻訳を私も読んだことがある。いや読まされたこともあったのである。選ばれた二人は大きな希望をもって日本へやって来たのである。

私がはじめてヘムタターさんに会ったのは住んでいた静岡県・島田のルーテル教会であった。牧師は若いアメリカ人の女性でたまたま京都への帰途立ち寄った二人を彼女が紹介してくれたのである。それが機縁で私は京都へ行くことになった。

私が京都へ行ったころ、ヘムスターさんたちは御所のそばにある京都日本語学校に通っていた。それは午前中だけであったが、午後はもっぱら仏教について勉強していた。また月に一度はルーテル教会の宣教師を集めて日本の宗教、主として仏教の研究会を開いていた。

教会には二人が住んでいましたが教会としての活動はまだなかった。二人の日本語が上達して、まわりの人と日常会話がスムースになると近くの子どもたちを集めて日曜学校を開いた。他の教会からオルガンの弾ける女の人も手伝いに来て日曜ごとに子どもたちと讃美歌を唱い、礼拝を行った。そして教会の門柱にはじめて「東亜道友会」という表札を掛けたのである。（つづく）

平成 25 年 6 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 502
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事務局 03(3582)3021
印　　刷：音和堂印刷㈱

アジア・太平洋国会議員連合

第 42 回総会、ミクロネシアで実施

IFA では、2006 年 10 月より「アジア・太平洋国会議員連合（APPU）」の事務局を運営しており、07 年 1 月に東京での臨時総会後、パラオ、奈良、台湾、東京と毎年度、総会を実施している。今年度は 9 月 7 日から 9 日にミクロネシア連邦（FSM）にて第 42 回総会ならびに第 76 回理事会が行われた。

◇

APPU は 1965 年（昭和 40 年）に岸信介首相ら有志の提唱を受け、志を同じくするアジアの国々によって創設された「アジア国会議員連合」（APU：Asian Parliamentarians' Union）がその基盤。創設当時はアジア地域における東西対立の深刻化があり、議員外交の場を設けて政府を支援しつつ、自由と民主主義に基づく域内の平和と安定を確立することを設立趣旨とした。

その後、加盟国に太平洋島嶼国も加わり、80年には、APPU、Asian-Pacific Parliamentarians' Union に名称を変更した。

91 年のソ連邦の崩壊、東西冷戦の終結もあって、APPU は当初の設立目的は達成したものの、近年、各国の国内情勢やアジア・太平洋をめぐる国際情勢は大きく動いており、一方、国際テロ活動の活発化や、北朝鮮の核開発の問題など域内の平和と安定を妨げる要因の増加が見られ、今後も一層の貢献が期待されている。

（加盟国・地域）

◇正加盟国（21 ヵ国）
- アジア地域（8 ヵ国）：
  日本、中華民国（台湾）、大韓民国、タイ王国、マレーシア、フィリピン共和国、ラオス人民民主共和国、モンゴル共和国
- 太平洋地域（13 ヵ国）：
  ナウル共和国、バヌアツ共和国、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、ソロモン諸島、パプアニューギニア、トンガ王国、サモア独立国、キリバス共和国、クック諸島、ツバル、フィジー共和国、パラオ共和国

◇準加盟 2 地域：
グアム、北マリアナ諸島、

◇オブザーヴァー 1 ヵ国：ベトナム社会主義共和国

◇

総会のテーマを「APPU、新たな挑戦と役割」とし、参議院議員山本順三先生をはじめ 7 ヵ国 25 名の議員と廣瀬徹也中央事務局事務総長が参加、持ちよられた 7 つの決議案を積極的に討議、結果、5 本の決議が採択された。

APPU 第 42 回総会ならびに第 76 回理事会の実施概要は次の通り。

◇

期間：2011 年 9 月 7 日～9 日
場所：ポンペイ（ミクロネシア連邦）
日程：

第 1 日目、9 月 7 日（木）
09:00～12:00　開会式プログラム
　Edwards ポンペイ州副知事挨拶
　Alik ミクロネシア連邦副大統領挨拶
14:00～17:00　第 76 回理事会
18:30～21:00　Isaac V. Figir 第 17 期ミクロネシア連邦議長•FSM APPU 議員団団長主催レセプション

2 日目　9 月 8 日（木）
09:30～10:30　第 42 回総会開会式
10:30～12:00　第 1 本会議
14:00～17:00　第 2 本会議
　各国カントリーレポート発表
　自由討議

3 日目　9 月 9 日（金）
09:00～11:00　第 42 回総会閉会式
　共同コミュニケ採択と調印
13:00～17:30　FSM 議事堂見学
18:30　お別れ夕食レセプション

世界万華鏡

日本語教師　市川（いちかわ）　伴武（ともたけ）　パラグアイでの生活　その2

暑い日本の夏、こちら南米パラグアイは現在、冬から春にかけての季節。気温が安定しておらず、朝に霜が降り、数日後には 30 度を越す日もあります。

■テレレ＆マテとは

パラグアイには「テレレ（Tereré）」や「マテ（Mate）」を飲む習慣があります。これらは同じ材料（茶葉）です。ただ、違いは冷いか熱いかで、夏にはテレレ（冷たいお茶）を飲み、冬にはマテ（暖かいお茶）を飲むのです。つまり、パラグアイ人はこのテレレとマテを年中飲んでいます。

そもそも、日系人が移住するまでは、パラグアイ人やインディヘナ（スペイン語で原住民）には野菜を食べる習慣がありませんでした。肉や魚やマンディオーカという芋が主な食料だったそうです。そんな偏った栄養バランスを補うのがビタミン豊富な茶葉であり、テレレやマテだったそうです。

日本のお茶と大きく違うのは、1 つの茶葉だけで飲むのではなく、いろいろな葉っぱを入れて飲むところです。この茶葉をパラグアイ語でジェルバ（Yerba）と言い、基本のジェルバに 3～4 種類の葉を加えるのが普通で、10 種類も入れる人もいて、自分好みの味を作ります。ジェルバにはまた、様々な効能や味の違いがあります。体を温める、おなかの調子を整える、便秘解消を促す、メンソールのように爽やかにする、甘い味を出すなどなどです。混合ハーブ茶とでも言うのでしょうか。今ではテレレやマテは「飲む野菜」と呼ばれ人々の生活に深く入りこんでいます。

■テレレ＆マテの必需品と作り方

テレレやマテを飲むときの必需品ですが、まず「テルモ」と言われるお湯または水を入れる水筒です。お湯用は日本の魔法瓶と同じようなものです。次にジェルバを入れるコップ、「グアンパ」です。昔は牛の角をくり抜いて作ったそうです。最後に一番大切なのが、それをチューチュー吸う金属性のストロー、「ボンビージャ」です。このストローには下部に茶葉が入ってこないように漉す機能がついているという優れものです。

作り方はグアンパの 7～8 分目までジェルバを細かく砕いて入れます。そこにボンビージャを刺し、テルモから、水またはお湯を注ぎ吸います。1 回に飲む量はほんの少しです。ここで一番大切なことは「回し飲み」です。

■テレレ＆マテの飲み方

この「回し飲み」こそが、テレレやマテをパラグアイの文化と言わしめる所以だと私は思います。一人がテルモを持って、注ぎ役とコップ渡し役をやります。一人が飲み終わったら、また注いで次の人に渡します。同じボンビージャで皆で飲むのです。日本人なら「やだっ」と思うかもしれませんが、決してストローの飲み口を手で拭てはいけません。失礼になってしまいます。同じストローを通して飲む。これこそが正式な飲み方であり、仲間の証なのです。それをゆっくりと回しながら、会話を楽しむのがパラグアイ式コミュニケーションなのです。

たとえ会議中であろうとも、バスの中でも、お昼休みやお酒を飲んだ後も、とにかく回ってきます。学校の運動会などがあった日には全ての家庭がそのセットを持ってきます。熱中症対策にもなり体にもいい、何て素敵な習慣でしょう。日本に帰っても続けたいです。

平成 23 年 9 月 17 日発行
社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 502
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事業部 03(3582)3021
印　　刷：音和堂印刷㈱

アジア・太平洋国会議員連合

APPU 第 41 回総会の実施

「アジア・太平洋国会議員連合（APPU）」の中央事務局と日本議員団事務局の運営を 2006 年 10 月より行っている IFA では、8 月 9 日から 11 日にかけて、東京にて第 41 回総会、またそれに先だって、第 75 回理事会の実施運営を行った。ここに APPU の紹介ならびに実施状況を報告する。

◇

●APPU とは

1965 年（昭和 40 年）に岸信介首相ら有志の提唱を受け、志を同じくするアジアの国々によって創設された、「アジア国会議員連合」（APU：Asian Parliamentarians' Union）が基盤。

APU 創設の背景には、当時のアジア地域における東西対立の深刻化があり、議員外交の場を設けて政府を支援しつつ、自由と民主主義に基づく域内の平和と安定を確立することを設立趣旨としている。

その後、太平洋島嶼国も参画し80年には、「アジア・太平洋国会議員連合」（Asian-Pacific Parliamentarians' Union/APPU）名称を変更した。

91 年のソ連の崩壊、東西冷戦の終結もあって、APPU は当初の設立目的は達成したものの、近年、各国の国内情勢やアジア・太平洋をめぐる国際情勢は大きく動いており、一方、国際テロ活動の活発化や、北朝鮮の核開発の問題など域内の平和と安定を妨げる要因の増加が見られ、APPU の一層の貢献が期待されている。

◇

●加盟国・地域

正加盟国 21 ヵ国

アジア地域（8 ヵ国）：日本、中華民国（台湾）、大韓民国、タイ王国、マレーシア、フィリピン共和国、ラオス人民民主共和国、モンゴル国

太平洋地域（13ヵ国）：ナウル共和国、バヌアツ共和国、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、ソロモン諸島、パプアニューギニア独立国、トンガ王国、サモア独立国、キリバス共和国、クック諸島、ツバル、フィジー諸島共和国、パラオ共和国

準加盟地域：グアム、北マリアナ諸島

オブザーヴァー：ベトナム社会主義共和国

◇

●今次総会と理事会の実施概要

開催時期：2010 年 8 月 9 日～11 日
場　　所：衆議院第一議員会館他
テ ー マ：環境と開発
日　　程：

8 月 9 日（月）
各国代表来日
20:00―22:00 第 75 回理事会

8 月10日（火）
09:30～10:30 第 41 回総会　開会式
10:30～12:00 第一次セッション
・決議案の審議
13:30～17:30 第二次セッション
・カントリーレポート
19:00～21:00 外務副大臣主催レセプション

8 月11日（水）
09:30～11:00 第 41 回総会　閉会式
・共同コミュニケ署名
11:30～13:00 日本議員団主催昼食会
13:00～16:00 都内視察

◇

平成 18 年度の東京臨時総会により、隔年で日本議員団が総会を主催することとなり、19 年のパラオ、20 年の日本（奈良）、21 年の台湾に続き今年の東京実施となった。参加議員数 44 名、議員事務局や在京大使館関係者も含め 76 名の盛会。議題は APPU 憲章の改定等が主となったが、議員同士のいい議論交換の場となり、次回はミクロネシア連邦での開催が決まった。

世界万華鏡

中田（なかた）　秀光（ひでみつ）　シニア海外ボランティア　パプアニューギニアでの生活　その2

PNG（パプアニューギニア）より Toksave（ピジン語でメッセージの意味）をお届けします。私の赴任先は PNG の東ハイランドにあるゴロカ大学です。首都ポートモレスビーから飛行機で 1 時間くらいのところです。この夏は、首都での会議に出席するなど忙しく過ごしております。ポートモレスビーの治安は悪く、質・量ともにゴロカの比ではありません。暑さもひとしおです。ゴロカに戻るとほっとします。通年24～25℃でクーラーも扇風機も必要ありません。

●豚のどこに綱を付けるか

「豚」というと PNG の人には特別の思いがあるようです。古い調度品や式事に使う道具などには必ずと言っていいほど「豚」が描かれています。伝統的な習慣として娘を嫁がせるときには何頭もの豚を持参金代わりに持たせると聞きます。そのため娘が生まれると豚を飼うのです。

また、ワントーク（一部族）では、結婚のみならず祝い事があると豚の丸焼きで一族をもてなします。そのときに備えてでしょうか、少し街はずれに行くと何頭もの豚を飼っている家庭を多く見かけます。事があるまでは豚はとても大切に可愛がられます。

仮にですが、豚を車でひいてしまったら大変です。400 キナ（約1万4千円）以上の金銭を要求されるとのことです。平均年収が 800 キナといいますので、かなり高額です。一般的には裁判は行われず、部族長が決定します。未だ部族長は絶対的権限を保持しています。

でももし豚を車でひいたときに誰も見ていなければ、その豚を抱えて持ち帰る。証拠隠滅を図るに限ると聞きました。私は時々街はずれに行くことがあります。何頭もの親子連れの豚が道端の草を食んでいる光景は何ともいえず微笑ましいものがあります。そういうときは豚の脇を最徐行して通るようにしています。

ところで主に子豚ですが、「犬の散歩」よろしく豚を散歩させている人をよく見かけます。さて、豚のどこに綱を繋ぐのでしょう。

写真：ゴロカ大学構内

足をご覧ください

●本業の日本語講座

5 月から週末を利用して大学の現地教職員を対象に「やさしい日本語講座」を開講しています。日本語のほかに日本事情・日本の歌・日本のアニメーション・書道・折り紙なども取り入れています。もしかすると学生よりも熱心かも知れません。今学期は 2 ヵ月に及ぶ学生紛争で講座開講が遅れ、やっと軌道に乗りかけたところに教職員によるストで思うように授業を行えないといった講座運営です。

平成 22 年 8 月 17 日発行
社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 502
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事業部 03(3582)3021
印　　刷：音和堂印刷㈱

アジア・太平洋国会議員連合

第 40 回総会、台湾で実施される

IFA では、2006 年 10 月より「アジア・太平洋国会議員連合（APPU）」の事務局を運営しており、翌 07 年 1 月に東京での臨時総会、08 年にはパラオでの第 38 回総会、昨年は奈良県での第 39 回総会と、その実施運営を担当してきた。

今年は、台湾での第 40 回総会が実施され、日本からは、参議院議員山本順三先生を訪問団団長として 5 人の先生方が参加した。人間の安全保障（①経済、②食糧、③保健、④環境）をテーマに 14 本に及ぶ決議案が持ち寄られ、参加国の積極的な討議の結果、うち 12 本の決議が採択された。ここにその概要と APPU の活動を紹介する。

◇

APPU 第 40 回総会ならびに第 74 回理事会の実施概要は次の通り。

開催期間：2009 年 8 月 10 日～12 日
場　　所：台北（台湾）
日　　程：

第 1 日目、8 月 10 日（月）
18:30～19:50　歓迎レセプション
20:00～22:00　第 74 回理事会

第 2 日目、8 月 11 日（火）
第 40 回総会
09:30～10:30　開会式
10:30～12:00　第 1 次本会議
12:00～13:30　昼食
13:30～16:30　第 2 次本会議
・各国カントリーレポート
・自由討議・意見交換
18:30～20:30　王金平立法院院長主催レセプション

第 3 日目　8 月 12 日（水）
09:30～10:30　立法院訪問
10:30～12:00　第 40 回総会閉会式
12:15～14:15　さよならレセプション
16:00　馬総統表敬

◇

APPU は 1965 年（昭和 40 年）に岸信介首相ら有志の提唱を受け、志を同じくするアジアの国々によって創設された「アジア国会議員連合」（APU：Asian Parliamentarians' Union）が基盤となっている。APU創設の背景には、当時のアジア地域における東西対立の深刻化があり、議員外交の場を設けて政府を支援しつつ、自由と民主主義に基づく域内の平和と安定を確立することを設立趣旨とした。その後、加盟国に太平洋島嶼国も加わり 80 年には、Asian-Pacific Parliamentarians' Union（APPU）に名称を変更した。

91 年ソ連の崩壊、東西冷戦の終結もあって、APPU は当初の設立目的は達成したものの、近年、各国の国内情勢やアジア・太平洋をめぐる国際情勢は大きく動いており、一方、国際テロ活動の活発化や、北朝鮮の核開発の問題など域内の平和と安定を妨げる要因の増加が見られ、今後も一層の貢献が期待されている。

◇正加盟国（21 ヵ国）
・アジア地域（8 ヵ国）：
日本、中華民国（台湾）、大韓民国、タイ王国、マレーシア、フィリピン共和国、ラオス人民民主共和国、モンゴル国
・太平洋地域（13 ヵ国）：
ナウル共和国、バヌアツ共和国、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、ソロモン諸島、パプアニューギニア独立国、トンガ王国、サモア独立国、キリバス共和国、クック諸島、ツバル、フィジー諸島共和国、パラオ共和国

◇準加盟 2 地域：
グアム、北マリアナ諸島、

◇オブザーヴァー 1 ヵ国：
ベトナム社会主義共和国

世界万華鏡　“欧州の高校生の見た日本”　平成 21 年度日欧高校生交流プログラム【短期】参加者

メルコルカ・アイスランド・女子
ホストファミリーのおかげで、座禅を体験できました。車も一緒に乗れる船にも乗りました。スゴイ!!

マヤ・イタリア・女子
2 日めでやっとクラスメートと会った！男たちは 4 人だけだって超ショックだった！でもみんなは優しいし、あたしの事まっすぐ受け入れたし、本当に嬉しかった。もちろん相違がいっぱいあって、たとえば、あたしは、いつもみんなと抱きしめて、男たちとも、みんな超びっくりした。

コーリー・英国・男子
ひとつだけ確かなことがあります。東洋と西洋両方から学んだほうがよりたくさんの教訓が得られるということです。僕は今後、必ず両方の見方を想定するようにベストを尽くし、それによって東洋でも西洋でもよりよい考え方、よりよい生き方を見つけることができると思います。

ダニエル・英国・女子
東京のこんでいる道の後と、ながののうつくしい山や田はとてもちがっていました。でも、びっくりしました。静かな田（カエルを別にして）のそばにでんしゃのせんろがあります。日本は古くって、歴史がある物と新しい物をまぜていると思います。例えば、ながの西高校で、有名な「ぜんこーじ」とじどうはんばいきが見えます。

スティナ・エストニア・女子
学校で、私は日本の暮らし方と考え方は、全くエストニアとは違っていることを学びました。まず、日本人は、とても小さなことにも喜びを見出し、人生を楽しんでいます。あと、急いで大人になろうとしていません。私はもう一度こどものようになれたのをとても楽しみました。

トーマス・オランダ・男子
大都会東京で、ぼくにとって未知の部分だった現代日本のライフスタイルについてのいい印象を受けました。でも、僕は以前も今もＪポップや漫画やアニメにはあまり関心がないので、むしろ佐渡のホスト・ファミリーのところに行って幸せでした。

クリスティーナ・オーストリア・女子
東京で過ごした時間もすばらしかったです。でも、私のホストファミリーと過ごした時間と較べると、わたしはやっぱり、福井に帰りたくなります。

メレット・スイス・女子
とても興味深いと思ったことは、お母さんがその話相手によって違う対応をすることでした。自分自身の両親とのとき、夫の両親とのとき、生け花のセンセイとのとき、自分の家族とのとき、それぞれ接し方を変えていました。

トビアス・スウェーデン・男子
僕のホスト・スクールはアニメで見た学校そのものでした。渡り廊下でつながった白い建物がふたつありました。

僕は普通の日本人が育つ普通の家にホームステイできたことをとてもうれしく思っています。お父さんは単身赴任をしていて週末だけ帰ってきます。お母さんは仕事があるのに早起きして朝ごはんを作り、お姉さん（OR 妹）はアルバイトに行くかどうか両親と相談していたし、お兄さん（OR 弟）はほとんどの時間を塾で過ごしていました。こういうことは、ぼくの町ではあまりないと思います。

平成 21 年 8 月 17 日発行
社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 502
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事業部 03(3582)3021
印　　刷：音和堂印刷㈱

アジア・太平洋国会議員連合

第39回総会と第73回理事会実施

「アジア・太平洋国会議員連合（APPU）」の中央事務局と日本議員団事務局の運営を担当しているIFAでは、8月10日から12日にかけて、奈良県に於いて第39回総会と第73回理事会を実施運営した。現在、APPUの正加盟国は21ヵ国、準加盟国・地域が2地域（グアム、北マリアナ諸島）、オブザー1ヵ国（ベトナム）となっている。以下は正加盟国。

◇アジア地域（8ヵ国）：

日本、中華民国（台湾）、大韓民国、タイ王国、マレーシア、フィリピン共和国、ラオス人民共和国、モンゴル共和国

◇太平洋地域（13ヵ国）：

ナウル共和国、バヌアツ共和国、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、ソロモン諸島、パプアニューギニア、トンガ王国、サモア、キリバス共和国、クック諸島、ツバル、フィジー共和国、パラオ共和国

今回の総会は平成18年度に実施された東京での臨時総会を受け、隔年で日本議員団が総会を主催することとなり、昨年のパラオでの第38回総会を経ての実施となる。奈良県協力による視察やレセプションも特徴となり、参加者は100名と、予測をはるかに上回る盛会。「代替エネルギー、地球温暖化、気候変動、人材育成」をテーマに各加盟国議員間で活発な意見が交わされた。

◇

APPUは、1965年（昭和40年）に岸信介首相ら有志の提唱を受け、志を同じくするアジアの国々によって創設された「アジア国会議員連合」（APU：Asian Parliamentarians' Union）が基盤となっている。その後、加盟国を徐々に増やし、80年には、「アジア・太平洋国会議員連合」（APPU：Asian-Pacific Parliamentarians' Union）に名称を変更、太平洋島嶼国の国々も会員に迎え入れた。創設の背景には、当時のアジア地域における東西対立の深刻化があり、創立の趣旨は議員外交の場を設けて政府を支援しつつ、自由と民主主義に基づく域内の平和と安定を確立することとしている。

その後、ソ連の崩壊、東西冷戦の終結もあって、当初の設立目的は達成したものの、近年、各国の国内情勢やアジア・太平洋をめぐる国際情勢は大きく動いており、一方、国際テロ活動の活発化に加え、北朝鮮の核開発の問題など域内の平和と安定を妨げる要因の増加が見られ、APPUの一層の貢献が期待されている。

今次総会と理事会の実施概要は次の通り。

開催時期：2008年8月10日～12日
場　　所：奈良県新公会堂
日　　程：

8月10日（日）
各国代表およびオブザーヴァー来日
20:00－22:00 第73回理事会

8月11日（月）
09:30～10:30 第39回総会　開会式
10:30～12:00 第一次セッション
・決議案の審議・採択
13:30～17:30 第二次セッション
・カントリーレポート
17:40～18:30 東大寺大仏殿視察（奈良県主催）
19:00～20:00 知事主催レセプション
20:00～21:30 燈花会、春日大社視察

8月12日（火）
09:30～11:00 第39回総会　閉会式
・共同コミュニケ署名
11:30～13:00 日本側レセプション
13:00～16:00 奈良県視察（薬師寺、大和ハウス総合技術研究所）

世界万華鏡　吉田鈴香　スウェーデン　食は奇妙な文化交流

筆者がスウェーデンで研修を受けた同国の国防軍国際センターには、民軍協力のコースのために、NATO諸国と中東諸国、アフリカ諸国から30数名が訪れていた。筆者はアジアから唯一の参加者であった。他のコースの在学生と教員を含めると、100名近くの多国籍が同時期にセンターに滞在していた。朝早くから夕方まで議論と論文執筆が続くのであるが、夜になると誰彼なく玄関脇のロビーに出てきて自由討論となる。同時期に滞在していた複数コースの中では筆者が在席していたコースが最も活発で、初日から明け方まで大声で話し、笑い合った。理由は、筆者が持ち込んだ柿の種と柿ピー（柿の種とピーナッツの混合）。日本生まれで日本育ちのおつまみである。

柿の種と柿ピーを供出すると、皆、「これはなんだい」といぶかしげな様子であったが、筆者がボリボリと音も高らかに食べ方の見本を示すと、そこは軍事関係者らしい潔さで筆者に習った。すぐに、「お、これはいいな」「ビールに合うな」と口々に叫んだ。「俺、ビール持ってんだ。飲もうぜ」。「俺はアイルランドからモルト・ウイスキーを持ってきた。これとも合うな」、「ラム酒だっていいよ」となり、それぞれの酒を持ち寄って、異種混合の酒盛りになってしまったのである。ひとあおりグビッとやっては、柿ピーをガサッとつかんで口中に放り込む。酒を飲めないイスラム諸国の人々は、コーラ片手にほおばる。「これ、どの酒にも合うなあ」、「人によって噛む音が違うんだなあ」と、全員が共通した感想を抱いた。と、今度はその音を披露し合うことになった。彼らは食に「音」という概念を持ち込むことはなかったようで、その味と音とに、大いにはまってしまった。

翌日、スウェーデン人が講義終了後に最寄のスーパーでJAPONと銘打ったおつまみを調達してきた。ミックスあられである。「どうだ」と言わんばかりに広げると、全員が一斉に手を出し、こりゃあいい、と座は盛り上がった。筆者はしかし不満であった。形は様々だが味は同じのが一つの袋に入っているだけではないか。異種の味が口中で混じるからこそおいしいのに。正しいミックスあられと柿の種、柿ピーを知らぬ彼らは、わが訴えにも耳を貸さず、ボリボリバリバリ。酒量もハイスピードで消費されていくのであった。日本のあられはどんな飲み物にも合い、宗教や地域のタブーに触れないようにできていると、どこの国でも大好評である。超文化的食べ物ともいうべきあられには、多国籍の人々を一気にまとめる力をもあることを、身をもって感じた。

さて、研修の合間の日曜日、我々はストックホルムの街中に繰り出した。ストックホルムには何度か国際会議などで滞在したが、そのつど「すし屋」が増えている。スウェーデンはもともと生魚を食する文化を持つため、鮨に違和感なく飛びついたようだった。この日街で見かけた鮨屋の看板に、筆者の目は釘付けになった。「SUSHI & Coffee」。コーヒーのおともに鮨と。日本の伝統食に国境はないと思っていたが、やはり、異文化の壁は、ある。

平成20年8月17日発行
社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ502
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事業部 03(3582)3021
印　　刷：音和堂印刷㈱